

福島県道路公社 第5期中期経営計画実績評価

(平成31年度(令和元年度)～令和3年度)

I 推進の経過及び成果

1 経過

当公社では、外部有識者を含む委員で構成する「経営計画マネジメント委員会」を設置して、経営の改善に向けた方針を明確にし、計画的な取組を行うため、平成18年度から中期経営計画を策定するとともに、年度ごとに進行状況の検証・評価も行いながら、経営の改善や効率化に努めてきた。

第1期(期間:平成18年度～平成20年度)

第2期(期間:平成21年度～平成23年度)

第3期(期間:平成25年度～平成27年度)

第4期(期間:平成28年度～平成30年度)

第5期(期間:平成31年度(令和元年)～令和3年度)

第5期中期経営計画の推進にあたっては、経営方針として「安全・安心・快適な道路環境等の確保」を基本方針のもと、有料道路や有料駐車場利用者への安全で安心・快適な環境を提供し、利用の促進と料金収入の増加に繋げるとともに、組織の効率的な運営と経費の節減に務め、経営の効率化に取り組んだ。

また、計画目標の達成に向けて、公社の全職員が計画の趣旨・内容を理解、共有したうえで、毎月のマネジメント委員会において、利用状況などの進行管理や対応等のPDCAを実施した。

このような取り組みの中、令和2年1月からの「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴い、緊急事態宣言やまん延等防止重点措置による不要・不急の外出、移動の自粛や各種イベント行事等の開催の中止等が相次いだことから、有料道路の利用台数が大幅に減少するなど、当中期経営計画の遂行に対して大きな影響が生じた。

2 成果

第5期中期経営計画期間中の有料道路事業では、自動車専用道路としての時間短縮効果や回数券利用の利便性などが利用者に浸透したことにより、平成31年度の通行台数や料金収入については、計画目標値を上回る実績となり、当期収支差は計画額に対し20,373千円の増となった。

なお、令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、通行台数、料金収入ともに計画目標値を下回ることが予測されたことから、5道路路維持管理費や一般管理費等の執行調整や重点峻別に務め、当期収支差は計画額に対し、令和2年度は7,765千円、令和3年度は21,858千円の減となった。

また、年度末長期債務残高はコロナ禍の影響により、償還実績額が計画額を下回ったことから、令和3年度末において2,839,495千円となり、計画に対し31,426千円上回る残高となった。

経営目標値の達成状況や事業の取組状況については次のとおりである。

II 経営目標の達成状況

1 有料道路事業

福島空港道路の計画期間中の通行台数及び料金収入の実績は、平成31年度は、あぶくま高原道路の時間短縮効果や回数券利用による利便性に対する利用者理解の浸透などにより、年間通行台数、料金収入ともに計画目標値を2～4%上回り目標を達成することができた。

令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、緊急事態宣言やまん延等防止重点措置による不要・不急の外出、移動の自粛が続いたことから、観光やレジャー等の通行台数が大幅に減少し、令和3年度の年間通行台数は、前計画（第4期）の期末（H30年度）と比較し、85.2%の、445,935台となり、第5期の計画目標達成率（D/G）は、80.1%となった。

また、年間通行料金収入は、前計画の期末と比較し87.6%の149,974千円となり、第5期の計画目標達成率は、82.6%となった。

福島空港道路の通行台数及び通行料金収入実績

（単位：台、%、千円）

	実 績				対 比 D/A	計画目標値			達成率 D/G
	H30年度 A	H31年度 (R元年度) B	R2年度 C	R3年度 D		H31年度 (R元年度) E	R2年度 F	R3年度 G	
1日当たり 通行台数	1,435	1,493	1,229	1,222	85.2	1,463	1,496	1,526	80.1
年間 通行台数	523,685	546,327	448,613	445,935	85.2	535,300	546,000	556,900	80.1
年間 料金収入	171,113	181,860	152,310	149,974	87.6	173,600	177,900	181,500	82.6

III 主な施策及び具体的取組の評価

I 有料道路事業

福島空港道路

1 有料道路の利用促進

有料道路利用者の利便性向上と利用促進につながる通行料金の回数券利用の拡大に努めた。

なお、料金所における現金授受による接触機会の軽減を図る観点から、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策としての回数券利用促進を推進した。

また、令和2年度において料金収受機器の経年劣化によるトラブルを未然に防止するため、更新期を迎えた料金収受システム機器を計画どおり更新した。

◇有料通行台数の回数券利用による通行台数 （単位：台）

年度	有料通行台数	うち回数券利用	比率
H30	523,685	84,956	16.2%
H31(R1)	546,327	108,981	20.0%
R2	448,613	115,128	25.7%
R3	445,935	102,316	22.9%

(1) 地域と連携したPR活動の展開と新規利用者の開拓

① 沿線地域で開催される産業祭や北関東圏で開催されるイベント等でのPR活動の実施。

平成31年度は、沿線地域で開催のイベント等に参加し、パンフレットの配付や回数券の利用促進活動を行った。令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、PR活動を予定していた全てのイベント開催が中止となったため実施できなかった。

◇平成31年度にPR活動を実施した参加イベント

- ・とうろく君まつり（R1.5.3 平田村）
- ・第17回那須九尾まつり（R1.9.29 栃木県那須町）

② ホームページによる利用のPR、沿線地域イベント情報の発信

計画期間中の各年度を通じ、ホームページへ回数券利用のPRを盛り込んだ沿線地域のイベント情報や観光情報を掲載した。

また、令和元年10月の消費税率の引き上げに伴う通行料金の改定を実施したことから、事前に改定通知のチラシの配布や収受員の接遇研修を行い、料金所窓口における接遇の向上に努めた。

③ 沿線地域の新規進出企業等の訪問活動による利用の拡大

平成31年度に沿線地域の小野町、平田村、玉川村の進出企業及び観光施設や道の駅、自治体等を訪問し、利用の促進のためのPR活動を実施した。

令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、訪問によるPR活動は自粛した。

④ 料金所ブースでの沿線地域観光情報パンフレット等の配付

計画期間中の各年度を通じ、料金所ブースを利用し、「県中地区おもてなしロードマップ」や「あぶくま洞」、「ジュピアランドひらた」の等の沿線地域の観光パンフレット、割引券等を利用者に配付した。

2 利用者の安全・安心の確保

(1) 道路施設等の計画的な維持管理

① 適時適切な道路パトロールの実施

定期及び臨時の適時・適切な道路パトロールを実施し、利用者の安全な通行の確保に努めた。

② 舗装修繕、道路清掃及び除雪等の適切な実施

舗装損傷の進行した箇所については、補修工事を実施し、舗装の健全化と通行の安全確保を図った。

また、令和3年2月の福島県沖地震により発生した路面の段差等については、県と連携して補修を実施し、速やかな通行の確保を図った。

道路の維持管理（除草、側溝清掃、舗装の応急穴埋めや早期修繕、冬期間の雪氷対策等）については、的確な状況把握に努めながら、必要な処置を適時に実施した。維持管理全般については、コスト意識を踏まえながら通行の安全確保を最優先に取り組んだ。なお、平成31年度及び令和2年度は暖冬のため、除雪などの雪氷対策費が抑えられた。

③ 施設、設備等の計画的な更新の実施

令和2年度において、経年劣化によるトラブルを未然に防止するため、凍結抑制剤散布車を計画どおり車両更新し、冬期間の通行の安全を確保するとともに作業効率の向上を図った。

(2) 災害時・緊急時の体制の確立

① 緊急時における連絡体制、警報待機体制の確立

各年度の初めに公社における緊急時の連絡体制及び警報待機体制を調えた。

また、令和2年3月に県と連携し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策と公社職員や受託管理事業組合職員に発症者が生じた際の維持管理体制等の対応方針を定め、さらに平成2年6月には「感染拡大対策ガイドライン」を策定し、感染防止対策の徹底に努めた。

② 県道路管理者との情報共有化の実施

各年度において、県の関係建設事務所との調整会議や冬期道路交通円滑化会議（県中及び県南地方）等を行い、国、県、市町村及びNEXCO等の道路管理者、警察との情報の共有を図った。

3 適切な入札制度・契約制度の実施

(1) 入札方式等の継続実施

① 一括契約・共同受注方式、公募型プロポーザル方式による入札の継続実施

維持管理業務実施体制の確保と入札事務の軽減を図るため実施している「一括契約・共同受注方式」及び「公募型プロポーザル方式」による入札を継続して実施した。

② 維持管理業務委託の複数年契約の実施

維持管理業務委託については、平成31年度から令和2年度までの2カ年間の複数年契約を導入実施し、令和3年度においても、令和3年度、令和4年度の複数年契約を継続して実施したことにより、約3%の経費節減となった。

③ その他

令和2年度に実施した舗装補修工事及び空調設備改修工事の入札については、条件付一般競争入札（価格競争）により実施した。

II 有料駐車場事業

1 既存駐車場の利用促進

有料駐車場事業については、良好な駐車場環境を確保し、ホームページ等で利用促進を図ったが、近隣の事業所の移転や新型コロナウイルス感染症の感染拡大等による経済活動の影響に伴い、一部の駐車場においては稼働率の低下が見られた。

① 現地看板や公社ホームページを活用した空き情報等の提供

ホームページへの利用者募集、空き情報提供、現地への募集看板掲示や契約者が減少した荒町駐車場の近隣事業所への募集用チラシの配付を実施した。

② 定期巡視による施設の適切な維持管理の実施

定期的な駐車場の巡視を実施し、施設の適切な維持管理に努めた。

令和3年度は、あづま陸橋駐車場の照明設備の更新及び荒町駐車場の区画線・車止め等の損傷箇所の補修を実施した。

③ 除草、清掃作業の実施による駐車場環境の確保

各駐車場（県内4市6カ所）の定期的な除草・清掃作業、鳥害対策を実施し、良好な駐車場環境の確保に努めた。

有料駐車場全体の利用台数、稼働率、料金収入実績

	実 績 (単位：台、千円)				対前年度比(%)		
	H30	H31	R2	R3	H31/H30	R2/H31	R3/R2
駐車台数 (月平均)	258	257	251	244	99.6	97.7	97.2
稼働率	96.3	95.6	93.6	90.9	99.3	97.9	97.1
料金収入	23,718	23,464	23,457	22,538	98.9	100.0	96.1

Ⅲ 道路管理受託事業

1 あぶくま高原道路管理受託事業

県と平成31年度から令和2年度及び令和3年度～令和4年度までのそれぞれ2カ年間の委託契約を締結して、有料道路区間と隣接する矢吹IC～矢吹中央IC間及び玉川IC～福島空港IC間の2区間についての維持管理を実施した。

① 有料道路と密接に関連する県管理道路のパトロール、補修、清掃、除雪等の実施

有料道路と隣接する県管理道路の2区間について、有料道路区間と同様に、「安全・安心・快適な道路環境の確保」を基本方針として、一体的な維持管理を実施した。

② 県道管理者との情報共有化

県と情報の共有化を図り、交通規制や異常気象等の緊急事態に対応した。

Ⅳ 経営の効率化

以下のとおり、各事項において経費節減に務めた結果、計画額を上回る一般管理費の減額となった。

1 組織の効率的運営

① 定年退職プロパー職員等の人材活用

定年退職したプロパー職員等を嘱託員として再雇用し効率的な運営を図った。

② 職員の研修会等への積極的な派遣による意欲向上と活性化の促進

平成31年度は研修会に職員を派遣したが、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対応のため、予定をしていた各研修会は中止となり実施できなかった。

2 管理経費の節減

① 省資源・経費節減に向けた職員の意識向上のための「エコオフィス自己評価」の継続実施

毎年度「エコオフィス自己評価」を継続実施し、省資源の意識向上を図り、事務用品、印刷物等の事務経費の節減に務めた。また、令和2年度において、道路維持作業車1台を廃車、売払いし、車両維持費の縮減を図った。

② ノー残業デー、リフレッシュデーの徹底等による超過勤務手当の縮減

ノー残業デー、リフレッシュデーの周知徹底により「ワーク・ライフ・バランス」の意識付けとともに超過勤務手当縮減計画の策定による働き方改革の視点のもと生産性向上に努めた。なお、結果として超過勤務手当の縮減が図られた。

3 法令の遵守

① 適正な事務執行と各種法令遵守に関する職員研修等による意識の向上

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止を図るため「新型コロナウイルス感染拡大対策ガイドライン」を定め、公社職員及び受託管理事業組合職員の感染防止対策を徹底して実施した。

また、各種法令遵守の徹底を図るため、「コンプライアンス自己評価」を毎年度継続実施した。

② 個人情報の流出やホームページ等の情報セキュリティ対策の徹底

個人情報流出やホームページ等の情報セキュリティの確保について職員への指導、徹底を図った。

また、ホームページの保守契約やサーバーの情報遺漏防止器（Firewall）の継続導入による対策を実施した。

③ 入札事務や料金收受監督業務における情報管理の徹底

入札事務及び料金收受監督業務については、細心の注意を払い業務の執行にあたった。

④ 各種規程、細則等の点検、見直しの実施

県からの条例改正等の通知により、必要規程の改正及び要綱等の整備を実施した。

IV 事業収支実績

(1) 事業収支実績

事業収支実績の当期収支差（ $(A)-(B)=(C)$ ）の計画額との差額は、平成31年度については、道路料金収入が伸び20,373千円と改善したが、令和2年度及び令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、道路料金収入が大きく減少したため、令和2年度は7,765千円、令和3年度は21,858千円の減となったことから、第5期期間中の収支差は、計画額に対し9,250千円の減となった。

(2) 年度末長期債務残高

平成31年度に建設資金のうち、政府等借入金の償還を完了した。

令和3年度末現在における長期債務額は、令和2年度及び令和3年度は償還実績額が下回ったことから、計画額に対し31,426千円上回る残高となった。

事業収支計画・実績対比表

(単位:千円)

科目		年度			実 績			計 画			差額(実績-計画)		
		平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
		A	B	C	D	E	F	G	H	I			
当期 収 益 (A)	道路料金収入	181,860	152,310	149,974	173,600	177,900	181,500	8,260	△ 25,590	△ 31,526			
	駐車場料金収入	23,464	23,457	22,538	23,803	24,022	24,022	△ 339	△ 565	△ 1,484			
	業務雑収入	90	2	98	0	0	0	90	2	98			
	受託業務収入	151,412	153,445	163,397	160,715	160,715	162,189	△ 9,303	△ 7,270	1,208			
	業務外収入	30,166	30,471	30,089	30,147	30,147	30,147	19	324	△ 58			
	収入計	386,992	359,685	366,096	388,265	392,784	397,858	△ 1,273	△ 33,099	△ 31,762			
当期 費 用 (B)	維持改良費	41,045	59,590	66,139	46,744	66,744	76,744	△ 5,699	△ 7,154	△ 10,605			
	道路管理費	50,356	56,221	56,165	50,116	57,163	47,163	240	△ 942	9,002			
	駐車場管理費	6,685	6,685	10,069	8,240	8,265	8,265	△ 1,555	△ 1,580	1,804			
	一般管理費	34,528	31,507	28,582	39,808	39,847	39,847	△ 5,280	△ 8,340	△ 11,265			
	業務外費用(利息等)	30,319	30,000	30,000	30,368	30,048	30,048	△ 49	△ 48	△ 48			
	受託業務費	151,412	153,445	163,397	160,715	160,715	162,189	△ 9,303	△ 7,270	1,208			
	支出計	314,345	337,448	354,352	335,991	362,782	364,256	△ 21,646	△ 25,334	△ 9,904			
当期収支差(A-B)=C		72,647	22,237	11,744	52,274	30,002	33,602	20,373	△ 7,765	△ 21,858			
償還金 D	(建設資金)	101,420	0	0	101,420	0	0	0	0	0			
	(収支差借入金)	0	11,281	1,722	0	30,002	33,602	0	△ 18,721	△ 31,880			
前期繰越金 E		11,336	11,354	22,279	844	0	0	10,492	11,354	22,279			
次期繰越金 F		11,690	22,310	32,301	0	0	0	11,690	22,310	32,301			
収 支 差 (C-D+E-F)		△ 29,127	0	0	△ 48,302	0	0	19,175	0	0			

※ 無料開放処理に関する費用(予算)は計上していない。

※ あぶくま高原道路管理受託事業については、受託業務収入・受託業務費に計上。

年度末長期債務残高内訳表

(単位:千円)

科目		年度			実 績			計 画			差額(実績-計画)		
		平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
		A	B	C	D	E	F	G	H	I			
長期債務額 (出資金含)		2,852,498	2,841,217	2,839,495	2,871,673	2,841,671	2,808,069	△ 19,175	△ 454	31,426			
内訳	建設 資金	政府等借入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		福島県出資金	790,000	790,000	790,000	790,000	790,000	790,000	0	0	0	0	
	収支差借入金	2,062,498	2,051,217	2,049,495	2,081,673	2,051,671	2,018,069	△ 19,175	△ 454	31,426			

V 当面の課題と取組み

1 有料道路の利用促進

新型コロナウイルス感染症の感染拡大等に伴う通行台数の減少が引き続き見込まれるため、沿線地域の産業祭や北関東圏の地域イベント等でのPR活動に加え、観光需要支援事業や新たな復興道路の開通による利用者のより一層の拡大に向け、県と協議を進め、沿線地域の道の駅、空港、観光施設等と連携した利用促進キャンペーンの実施に取り組む。

2 道路施設等の計画的な更新

福島空港道路は供用開始から21年が経過し、道路施設や管理設備等の更新時期を迎えているが、現在の通行台数の減少に伴い、これらの更新に必要な財源の確保が厳しい状況にある。

このため、舗装補修、施設、設備等の更新に必要な財源を長期的に確保し、計画的な道路施設等の更新に取り組む。

3 有料駐車場の利用促進

有料駐車場事業については、県内4市に6カ所の月極駐車場を設置しているが立地条件等により利用者の伸び悩みの箇所もあることから、引き続き各駐車場の稼働率を高めるため、近隣事業所への募集チラシの配付やホームページ等により利用者募集に取り組む。

また、施設の経年劣化等に伴う補修や、定期的な清掃、除草作業等を継続して実施し、良好な駐車環境の確保に取り組む。